

# 地域社会とつながる工場緑地を目指して 樹木医資格への挑戦

MHIファシリティサービス株式会社・樹木医 梶原 賢治

樹木医という資格を意識したのは、私が自治体向けの環境施設（ごみ処理・粗大ごみ処理施設等）の建設工事に携わり、工場敷地の中に市民開放型等緑地公園を併設するといった工事管理を行っていた時のことです。愛知県のある現場で、造園業者の社長さんから樹木医という資格を紹介されました。その時の話の内容は定かではありませんが、「建設工事後10年20年経過した緑地公園の管理には、造園業者だけでなく樹木医も必要となる」と言われたことが記憶にあります。

その後、現場の建設工事から離れ、工場施設全般を管理する部署に移動して10年が経過しました。

## 工場緑化の現状

工場は工場立地法により敷地面積に対して一定割合以上の緑地等を確保しなければならないため、緑地面積の確保が主眼になり、樹木・緑地に対する良質な管理に関しては少し意識が低いように感じられます。全体として緑地管理が大事なことは認識していても、生産性やコストパフォーマンスから二の次とならざるを得ないのだと思います。

また、社内での樹木医への認識は「樹木を見守る資格」程度の捉え方であり、個人レベルで自身のスキルアップ向上の手段として考えることはまだできていないと思います。会社の中でも、経営層の考え方や景気により工場緑化への取組や緑化活動も左右されるように感じられます。

## 工場緑化の役割を考える

「地域社会とつながる工場緑化の役割」を私の業務から考えてみます。私どもの管理している工場を例にすると、工場内で毎年行われる駅伝大会や、2年に一度地

域住民や従業員の家族を招いて開催する工場見学会が工場をアピールする機会となっていますが、工場緑地にはあまり触れていないように思われます。せめて緑地の規模（野球場一面ほどの緑地）や緑地の効果等を説明する機会は設ける必要があると思います。工場緑地は、循環型社会や周辺地域への環境保全にも、わずかかもしれませんが貢献しています。実際、緑地帯には野鳥をはじめ昆虫類も生息していますので、五感を通して工場緑地を感じてもらいながら、このような緑地の機能を工夫・アイデアをもって紹介できるのではないのでしょうか。

## 樹木医として

私は先にお話した造園業者の社長さんからのすすめを思いだし、平成28年に樹木医を取得しました。それから2年になります。工場緑化や一般市民の方が利用する公園緑地等に関心や重要性を感じて業務を行っていますが、外部や一般の方への情報提供や発信する力量はまだありません。まずは身内の社内に向け、「樹木医の役割」、「緑地の大切さ」を伝えられるように、研修会等を通じて知識、管理手法及び情報を入手していきたいと思います。そして、工場施設管理から「地域社会とつながる工場緑地」へとつなげていきたいです。また、日本緑化センターの推進する「緑化優良工場等表彰制度」に関わることができる会社になるように、一個人ではありますが努力をしまりたいと思います。

最後に、筑波での2週間の樹木医研修は自分にとっていろいろな面で勉強させていただいた貴重な機会だったと思っています。今後もこのような研修に参加したいと考えています。再び樹木医目指した時の志を思いだし、微力でも樹木医として貢献できるように頑張っていきたいと思っています。